自然体験型の企業研修による
コミュニケーション能力の醸成

NPO 法人ホールアース研究所
代表理事　山崎　宏

※2017.07.20CSR-未来交流会での講演内容の抜粋

■富士山麓で活動・ホールアース自然学校

普段はホールアース自然学校という名称で活動しています。この講演会では企業の人材育成という視点からその事例を紹介します。自然学校の体験事例はたくさんありますが、今回は新入社員をはじめ企業の方々向けの研修についてです。

ホールアースは NPO 法人、株式会社の法人格などを持つグループ会社で、目指す社会像は、「一人ひとりが、「人・自然・地域が共生する暮らし」の実践を通じて、感謝の気持ちと誇りを持って生きている。」といったいわば共生型の暮らしを目指している独立民営型の自然学校です。

自然学校としては、1982 年にスタート、今年で 35 年を迎え、民間では一番古い類に入ります。

創設者の想いの起点は「アジア各地への支援がきっかけです。支援のために訪れた各地での人々の暮らしを見てみると、恵まれない、貧しいのだが、自然と対峙しながら、自然の恩恵を受けながら**生きる力や知恵が強烈に備わった暮らし**がそこにありました。翻って日本の子どもたちの実情は、1970 年代、新聞を賑わせたのは家庭内・校内暴力、公害問題などといった取り巻く環境の違いです。日本の子供たちもこのままで良いのか・・・、日本の子供たちの将来危惧を覚えた」という点にあります。

日本人の子供たちが「生きる力を備える」ことを事業として始めました。

スタートは、家畜動物との暮らしの実践、「動物農場」で生きる力を身に付けるところからです。やがて、動物と共に富士山麓でおもいっきり遊ぶ「遊牧民キャンプ」が大人気にとなりました。

■ホールアースグループのプロフィル

ホールアースグループは、平均年齢からすると、とても若い組織です。組織文化・マインドは、自立独立思考で、自然学校のノウハウを学んだら、その経験をもとに、自分が活かしたい場所で事業を始めるなどの「活動の場を切り開いていく」気風があります。

そういう中でさまざまな環境学習プログラムを開発してきました。

簡単なプロフィル・活動は以下の通りです。

1)自然体験／環境学習プログラム事業

※キャンプ・エコツアー・修学旅行・総合学習・健康増進・竹林整備・人工林間伐・食育プログラム

2)企業の環境活動／社員研修支援

3)行政事業の受託　※環境・農林・教育・観光・経産分野

4)国際協力　※エコツーリズム支援、環境教育支援

5)農林業への取り組み

6)災害復興支援

・創　設：　１９８２年

・常勤スタッフ数：　約４０名　（平均年齢約３５歳）

・組織形態：　株式会社（２つ）および NPO 法人（１つ）

・主要拠点：　富士宮市（本拠地）、名護市、郡山市など全国７拠点

■子供たち対象から社会人対象とした環境教育プログラムへ

いくつかのプログラムをご紹介します。富士山にある洞窟探検プログラム例です。

主に名古屋圏、関西圏の中学生が、東京に修学旅行に行く場合、東京ディズニーランドや都内で社会見学を行い、富士山に立ち寄り研修を行って帰るコースがあります。

修学旅行生が富士山に来た時に、この大自然を感じ取ってもらう環境学習に参加します。年間２万５千人から３万人の修学旅行生を自然学校では、受け入れています。

この場合は、対象者が中学生ということもあり、環境教育プログラムの実践の場では、スタッフが常時付き添います。

全国で培われている環境教育プログラムは少し編集し直すと企業研修用に置き換えることができます。その例をあげます。

■**社員研修プログラムへの応用**

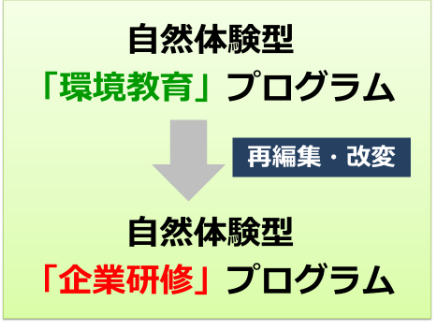
例えば、子どもたち向けの環境学習プログラム・富士山の洞窟探検の場合を編集すると

- 洞窟脱出（→洞窟探検ツアー再編　コミュニケーション型②参照）

富士登山プログラム・洞窟探検は、企業向けにすると、洞窟の奥からライトなしでのコミュニケーションによる脱出研修となります。コミュニケーションを繰り返すことで、どのように脱出できるか、チーム力による脱出がポイントです。IC レコーダーなで、コミュニケーションを録音して、後で、どのような会話が行われたかを研修に役立てます。

以下に示す企業研修用のプログラムがあります。

●洞窟内課題解決（→洞窟探検ツアー再編）
●農作業＋料理対決（→食育プログラム再編）
●内省×静的プログラム（→カヌー体験再編）
●内省×動的プログラム（→登山プログラム再編）
●内省×静的プログラム（→カヌー体験再編）



自然体験型の特に「環境教育」分野のプログラムは、企業研修とは、シナジーが取りやすく、上記の図に示すように、再編集・改変により、新しいプログラムにできます。

■**森林散策プログラム（チームビルディング型②参照）**

森の中でのオリエンテーリングをする感覚です。時間、リーダシップ、コミュニケーションのエッセンスを取り出す研修に役立ちます。少人数のグループにより、エリア内に設置されたポイントを探し出し、特典をチーム同士で競う研修プログラムです。

チーム形成にとりさらに、振り返ってどのようなコミュニケーションをしたかというプロセスを検討します。

■農作業＋料理対決（→食育プログラム再編）

コミュニケーションをとりながら農作業を行い、農作業で取れた農産物の調理を素材にグループに分かれ料理対決を行います。

収穫体験の後、例えば、ピザ窯などを用意して、審査委員を決め、コンセプトピザを創るためのヒアリングを行うなどのルールを決めて、調理にとりかかります。元は「こども用の食育プログラム」その応用です。

■CSR 型の研修プログラム

CSR を学びながら実体験したいという要望が多くあります。

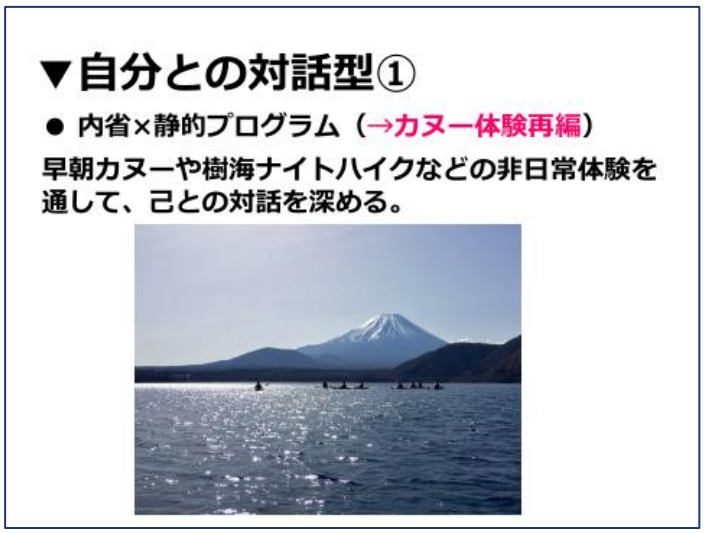
放置竹林や人工林の伐採・整備作業を通して、里山における社会課題と自社との接点を考

えます。簡単なワークショップを行い、例えば、自社で竹を応用すると「どのような使い方ができるのか」を考え、企画するなどの研修が行われます。もともとは、「里山保全プログラム」で都会の人たちの活動として用意したものです。

■自分との対話型研修プログラム

最近、問い合わせが多いのがマインドフルネスのような自己との対話型研修です。日々の室内での業務に追われる日常をリセットしてもらい、基本的な「自分」を再確認する狙いの研修です。

下記のように、早朝カヌーや樹海ナイトハイク、比較的体力のいる登山などを行うことの非日常体験を通して、自分との対話を深め、日常業務をリセットしてもらいます。一度、細かな点を忘れるのがポイントです。このような研修が大企業を中心にニーズが増えています。

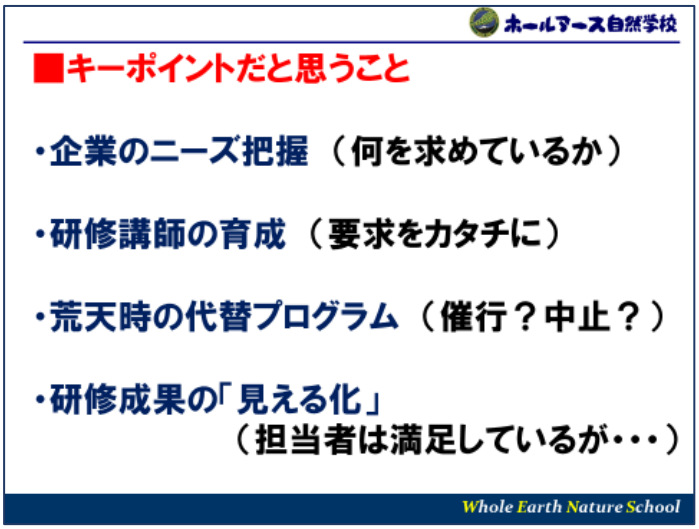


▲富士五胡にたたずんでもらいリセット

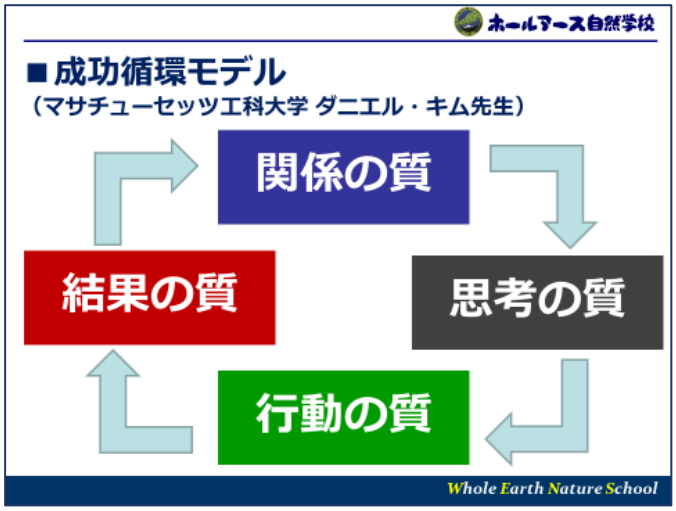
大自然のフィールドの環境教育だけではなく、企業のコミュニケーション研修の可能性は、多くを秘めています。「質の高い研修を実施したい企業」と「自然体験系 NPO」は、研修というキーワードを通して、相性が良いと感じています。

研修する際、NPO 側・受け入れ先は、

以下のようなキーポイントに気を付ける必要
があります。



年間 20 社程度の研修を支援していますが、研修を受ける側・企業サイド（人事の方々等）



の研修への期待は、人間関係を良くしてコミュニケーション能力を高め、関係性の
質も高めたいという意図があります。
大自然の中で一度チャレンジしてみたらいかがでしょう。